

科目名	臨床実習Ⅲ				単位数	16	時間数	720	
授業形態	実習	対象学生	PT 4年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	202教室・他
授業概要	総合臨床実習は、評価実習の内容に加え、対象者の障害像の把握、治療目標および治療計画の立案、治療実践ならびに治療効果判定等について、様々な疾患・状態の対象者を教多く経験することで学んでいく。長期の実習であることから、経過の観察を通じて理学療法の効果について経験を積み、診療録等への記載方法やカンファレンスへの参加など、様々な理学療法業務についても理解を深める機会となり得る。								
一般目標	<ul style="list-style-type: none"> ・対象者を尊重し、共感的態度をもって、より良い・善い人間関係を構築できる。 ・理学療法の流れを理解するとともに、臨床内容の意義を理解して説明をすることができる。 ・指導者の直接監視下で学生により実施されるべき項目(水準Ⅰ)において、1)リスク管理、2)理学療法評価、3)理学療法治療技術を実践することができる。 								
テキスト参考書等	4年次臨床実習Ⅲガイドブック、臨床実習教育の手引き 第6版(日本理学療法士協会、https://www.japanpt.or.jp/activity/books/education_01/)								

到達目標	
知識(認知領域)	<ul style="list-style-type: none"> ・4年次にまで履修した専門基礎科目・専門科目の知識について、想起(記憶している)～解釈(理解している)～問題解決(解決策につなげる)レベルで説明できる。 ・臨床実習で経験した内容について、資料や文献で調べたことをまとめた上で説明できる。
技術(精神運動領域)	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床実習のチェックリストにある「理学療法に関する情報収集・検査測定項目」について、可能な限りその多くを実施レベル以上となるよう反復練習を重ね、習得できる。 ・情報を整理した上で、臨床推論を医学的根拠によって展開することができる。また経過による変化を考察し、効果検証が行える。
態度(情意領域)	<ul style="list-style-type: none"> ・実習・服装・身だしなみに留意して臨むことができる。・報告・連絡・相談を適宜行うことができる。・守秘義務の徹底することができる。・個人情報情報の取扱いに細心の注意を払える。 ・期限・約束を厳守できる。・探求心や向上心を持って、意欲的に実習に取り組むことができる。

回数	授業内容	授業目標	事前学習(上段)・事後学習(下段)
	<p>総合実習</p> <p>実習前の取り組み</p> <p>①ワクチン接種状況確認</p> <p>②実習前面談</p> <p>③感染対策</p> <p>④学修到達度確認</p> <p>⑤実習関連書類の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習生プロフィール ・総合的評価およびコメント ・車両持込許可願(該当者) ・部外宿舎入居誓約書(該当者) ・食事申込書(該当者) ・個人情報保護に関する誓約書 ・出席簿 <p>実習中の課題</p> <p>①臨床体験、診療参加</p> <p>②臨床実習チェックリスト</p> <p>③臨床実習ポートフォリオ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デシリノート ・臨床経験気づきリスト ・文献収集 ・勉強会や研修会資料 <p>I 期 45時間×8週</p> <p>II 期 45時間×8週</p> <p>実習後の取り組み</p> <p>①実習関連書類の提出</p> <p>②実習後指導</p> <p>③凝縮ポートフォリオ作成</p> <p>④実技確認</p> <p>⑤情意面確認</p> <p>⑥口頭試問</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・対象者を尊重し、共感的態度をもって、より良い・善い人間関係を構築できる。 ① 清潔で適切な身だしなみ、ことば遣い、礼儀正しい態度で対象者に接することができる ② 共感的態度をもって、より良い・善い人間関係を構築できる ③ 周囲における自己の存在を意識した言動を行うことができる ④ 自らが置かれた立場で、必要とされている要件を認識し、他者や指導者の助言などに対して適切に応答できる ⑤ 対象者、家族のニーズ・要望などに対し、自身の感情を制御して接することができる ⑥ 対象者、家族にとって、相談しやすい雰囲気作りを心がけることができる ・職場における理学療法士の役割と責任について理解し、その一員として自覚のある言動をとることができる。 ① 医療職としての心得や職場内におけるルールを守ることができる ② 部門におけるルールを理解し、診療プロセスを理解した言動をとることができる ③ 臨床実習指導者と十分なコミュニケーションを保って良好な関係を維持できる ④ 積極的に理学療法スタッフや多職種と関わり、良好な関係を構築できる ⑤ インシデント・アクシデントが生じた際には実習施設の手順に従って対応できる ⑥ 守秘義務を果たし、プライバシーを守ることができる ⑦ 臨床実習施設における多職種連携の展開について見学できる ・理学療法の流れを理解するとともに、臨床内容の意義を理解して説明できる。 ① 検査項目・情報収集項目の抽出・取捨選択の理由を説明できる ② 検査結果の関連性について説明できる ③ 対象者が抱える課題を抽出し、その抽出理由について説明できる ④ 対象者の治療目標を設定し、その設定根拠について説明できる ⑤ 理学療法プログラムを選択し、その根拠について説明できる ⑥ 理学療法の即時効果を確認し、その内容について説明できる ⑦ 実施内容を診療記録に記載できる ⑧ カンファレンスでの症例提示内容について説明できる ・指導者の直接監視下で学生により実施されるべき項目(水準Ⅰ)において、次の項目1)～3)を実践することができる 1)リスク管理について <ul style="list-style-type: none"> ① スタンダードプリコーション(標準予防策)が実施できる ② バイタルサインの計測を実施できる ③ 意識レベルの評価を見学し、可能ならば実施できる ④ 各種モニターが使用できる 2)理学療法評価について <ul style="list-style-type: none"> ① 情報収集を実施できる ② フィジカルアセスメントを実施できる ③ 基本的な検査測定を実施できる ④ 姿勢観察を実施できる ⑤ 動作観察を実施できる ⑥ 疼痛の評価を実施できる ⑦ 日常生活活動評価(手段的日常生活活動を含む)を実施できる ⑧ 運動器疾患に関する個別検査を実施できる ⑨ 中枢神経疾患に関する個別検査を実施できる ⑩ 内部障害に関する個別検査を実施できる ⑪ 各種発達評価を実施できる 3)理学療法治療技術について <ul style="list-style-type: none"> ① 運動療法を実施できる ② 物理療法を実施できる ③ 義肢装具療法などを実施できる 	<p>本実習の事前学習では、4年次までに履修した解剖学・運動学・生理学といった専門基礎知識の想起と、評価技術の予習が中心となる。具体的には、ガイドブックを用いた実習手順の確認、各疾患に対する検査測定(ROM、MMT、動作分析等)の標準的実施方法の予習、リスク管理のための標準予防策やバイタルサイン計測の基礎確認を行う。また、対象者との信頼関係構築に必要な接遇マナーや守秘義務、倫理的配慮についても事前に再確認し、臨床推論の土台となる医学的根拠の整理を網羅的に行うものである。</p> <p>実習後の学修では、臨床で得た断片的な情報を統合し、医学的根拠に基づいた論理的な思考過程を定着させることが中心となる。具体的には、検査測定結果から対象者の障害像を解釈する「臨床推論」を深め、機能回復の限界や生活像を見据えた「予後予測」の妥当性を振り返る。また、抽出された課題に対して、なぜその「目標設定」に至ったのか、そして選択した「プログラム立案」がどのような生理学的・運動学的「根拠」に基づいているのかを言語化し、資料や文献を用いて補強する。最終的には、実施した介入の即時効果や経過に伴う変化を考察し、一連の診療プロセスを診療録やポートフォリオへ正確に反映させることで、全範囲の総復習を行うものである。</p>

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験				100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80点以上
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70点以上
授業態度				評価なし	可(1):60点以上
発表・作品	○(凝縮ポートフォリオ、口頭試問)	○(実技)		評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	川崎 裕史、他		実務経験紹介	理学療法士として病院勤務の経験があり、実習担当業務に携わってきた。	

科目名	臨床実習セミナーⅢ				単位数	1	時間数	30	
授業形態	演習	対象学生	PT 4年	学期	前期・後期	教員実務経験	有	使用教室	202教室
授業概要	4年次診療参加型臨床実習では、評価実習の内容に加え、対象者の障害像の把握、治療目標および治療計画の立案、治療実践ならびに治療効果判定等を学修することが求められる。臨床実習セミナーⅢでは、4年次臨床実習までに備えておくべき前提知識の学修到達度を確認した上で、知識を“想起できる”・“解釈できる”のレベルから、“問題に対して解決につなげる”まで発展させることを図る。								
一般目標	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでに修得した専門基礎・専門分野の知識を国家試験水準で身につける。 ・自己学修習慣を身につける。 								
テキスト参考書等	テキスト:必修ポイント 最新版 基礎PT学・障害別PT治療学(医歯薬出版)、 参考:国家試験過去問(第48回～第58回の共通分野・専門分野)、これまでに学内で使用した教科書全般								

到達目標									
知識(認知領域)									
<ul style="list-style-type: none"> ・専門分野における障害別知識を説明できる。 ・専門分野に関連する専門基礎分野(解剖学、生理学、運動学など)について説明することができる。 									
技術(精神運動領域)									
<ul style="list-style-type: none"> ・KJ法やブレインストーミングなどの手法を用い、周辺知識を関連付けて情報を整理できる。 ・学修到達度を把握し、無理のない自己学修スケジュールを立てることができる。 									
態度(情意領域)									
<ul style="list-style-type: none"> ・授業に積極的に参加することができる。(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する) ・授業に出席する。 									

回数	授業内容	授業目標	事前学習(上段)・事後学習(下段)
1	【骨関節系障害】膝・股関節疾患・骨折	骨関節系障害領域における膝・股関節疾患・骨折や、関連する専門基礎分野(骨・筋の名称など)の知識を調べることができる。学習領域において国家試験水準の知識定着が行えており、他者に解説することができる。	股関節疾患・骨折を予習する。(30分) 股関節周囲の解剖・運動学を復習する。(30分)
2	【骨関節系障害・理学療法評価】ROM・MMT・整形外科テスト	骨関節系障害領域に関連する理学療法評価を調べることができる。学習領域において国家試験水準の知識定着が行えており、他者に解説することができる。	評価項目の手順と基礎知識を確認する。(30分) 評価手法と各テストの解釈を復習する。(30分)
3	【中枢神経系障害】脳血管障害・高次脳機能障害・下肢装具	中枢神経系障害領域(脳血管・高次脳機能・下肢装具)や、関連する専門基礎分野(脳の解剖生理など)の知識を調べることができる。学習領域において国試水準の知識定着が行えており、他者に解説することができる。	脳の解剖生理と障害像を予習する。(30分) 脳血管障害の病態と装具の役割を復習する。(30分)
4	【中枢神経系障害・理学療法評価】反射・片麻痺機能評価・FIM・BI	中枢神経系障害領域に関連する理学療法評価を調べることができる。学習領域において国家試験水準の知識定着が行えており、他者に解説することができる。	各評価指標の採点基準を予習する。(30分) 評価の精度と判定基準を再度確認する。(30分)
5	【内部障害】呼吸器障害・循環器障害・代謝障害	内部障害領域(呼吸器・循環器・代謝障害)や、関連する専門基礎分野(肺の解剖生理など)の知識を調べることができる。学習領域において国試水準の知識定着が行えており、他者に解説することができる。	肺・心臓の解剖生理と疾患を予習する。(30分) 各内部障害の病態とリスクを復習する。(30分)
6	【内部障害・理学療法評価】バイタル・意識レベル・心肺運動負荷試験・呼吸機能・心電図	内部障害領域に関連する理学療法評価を調べることができる。学習領域において国家試験水準の知識定着が行えており、他者に解説することができる。	バイタルサインの基準値を予習する。(30分) 心電図や負荷試験の評価法を復習する。(30分)
7	【臨床実習Ⅲ 準備】臨床実習教育について	<ul style="list-style-type: none"> ・診療参加型臨床実習の意義と教育目標について説明できる。 ・個人情報保護法において、知り得た情報を適切に扱うことができる。 ・各種ハラスメントを理解し、適切な対応を取ることができる。 	実習の意義と個人情報保護を予習する。(30分) 実習生としての倫理と態度を復習する。(30分)
8	【臨床実習Ⅲ 準備】実習地提出資料作成	・実習プロフィール、各種誓約書、許可願、定期・宿泊地関連等の必要書類を準備することができる。	必要書類の項目と作成法を確認する。(30分) 自己プロフィールの記載内容を見直す。(30分)
9	【臨床実習Ⅲ 準備】実習地提出資料確認・提出	・実習プロフィール、各種誓約書、許可願、定期・宿泊地関連等の必要書類を確認した上で期日までに提出することができる。	提出書類の不備がないか最終確認する。(30分) 提出期限と送付マナーを再確認する。(30分)
10	【臨床実習Ⅲ 準備】感染対策について	<ul style="list-style-type: none"> ・抗体検査と予防接種の意味と目的について説明できる。 ・感染予防策やスタンダードプリコーションを理解し、実践することができる。 	標準予防策と感染症の基礎を予習する。(30分) 手洗い等の感染予防手順を復習する。(30分)
11	【臨床実習Ⅲ 準備】実習中の取り組みについて	・成果物(ディリーノート・気づきリスト・チェックリスト)の作成方法を身につけ、適切に作成できる。・必要に応じた情報を収集・管理することができ、文献内容をまとめることができる。	ディリーノートの記述法を予習する。(30分) 記録のまとめ方と情報管理を復習する。(30分)
12	【臨床実習Ⅲ 準備】ポートフォリオ演習①	・論証に必要な一次資料を収集・整理できる。・孫引きや剽窃に注意し、引用・出典ルールに基づいて資料を扱うことができる。・アカデミックライティングに則り、文章や成果物の体裁に留意した成果物を作成できる。	文献収集の方法と引用ルールを予習する。(30分) 資料の整理法と文章構成を復習する。(30分)
13	【臨床実習Ⅲ 準備】ポートフォリオ演習②	・論証に必要な一次資料を収集・整理できる。・孫引きや剽窃に注意し、引用・出典ルールに基づいて資料を扱うことができる。・アカデミックライティングに則り、文章や成果物の体裁に留意した成果物を作成できる。	アカデミックライティングを予習する。(30分) 引用ルールに基づいた作成法を復習する。(30分)
14	【臨床実習Ⅲ 準備】ポートフォリオ演習③	・論証に必要な一次資料を収集・整理できる。・孫引きや剽窃に注意し、引用・出典ルールに基づいて資料を扱うことができる。・アカデミックライティングに則り、文章や成果物の体裁に留意した成果物を作成できる。	成果物の体裁と論証方法を予習する。(30分) 剽窃の禁止事項と出典表記を復習する。(30分)
15	【臨床実習Ⅲ 準備】ポートフォリオ演習④	・論証に必要な一次資料を収集・整理できる。・孫引きや剽窃に注意し、引用・出典ルールに基づいて資料を扱うことができる。・アカデミックライティングに則り、文章や成果物の体裁に留意した成果物を作成できる。	提出物の最終チェックと推敲を行う。(30分) 全範囲の総復習を行い定期試験に備える。(30分)

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80点以上
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70点以上
授業態度				評価なし	可(1):60点以上
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	川崎 裕史		実務経験紹介	理学療法士として病院勤務の経験があり、実習担当業務に携わってきた。	

科目名	国家試験対策セミナーA				単位数	1	時間数	30	
授業形態	演習	対象学生	PT 4年	学期	後期	教員実務経験	有	使用教室	202教室
授業概要	国家試験合格に必要な知識を得るに当たり、国家試験の概要を理解し、各自で対策を講じるための情報等を提供する。								
一般目標	<ul style="list-style-type: none"> 各種試験に対応する分野を学習し知識を習得する。 各種試験を定期的実施することで、自身の理解度や到達度を把握し、苦手分野を克服し習得する。 教員による国家試験対策講座を受講することで、理解を深め知識を習得する。 								
テキスト 参考書等	クエスチョン・バンク共通問題 クエスチョン・バンク専門問題 適宜資料配布								

到達目標									
知識(認知領域)									
<ul style="list-style-type: none"> これまでに修得した専門基礎・専門分野の知識について説明できる。 専門基礎・専門分野の国家試験水準の多肢選択問題において、各選択肢の正解・不正解の理由を説明できる。 									
技術(精神運動領域)									
<ul style="list-style-type: none"> 学修到達度を把握した上で、継続でき、現実可能性のある自己学修スケジュールを立てることができる。 									
態度(情意領域)									
<ul style="list-style-type: none"> 国家試験に向け、積極的に参加することができる。(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する) 授業に出席する。 									

回数	授業内容	授業目標	事前学習(上段)・事後学習(下段)
1	国家試験対策オリエンテーション	国家試験に関する概要(試験範囲、合格基準、問題傾向)を理解する。また、今後の国家試験対策の流れを理解する事ができる。	テキストを読み評価の目的を予習する。(30分) 検査の基本原則と意義を復習する。(30分)
2	国家試験対策講座	解剖学(骨・関節)の国家試験に関わる知識を習得する事が出来る。	骨・関節の解剖学の基礎を予習する。(30分) 解剖学の国家試験過去問を復習する。(30分)
3	国家試験対策講座	解剖学(筋)の国家試験に関わる知識を習得する事が出来る。	筋の起始・停止や作用を予習する。(30分) 筋に関する国家試験問題を復習する。(30分)
4	国家試験対策講座	内科学(腫瘍性疾患)の国家試験に関わる知識を習得する事が出来る。	腫瘍性疾患の概要について予習する。(30分) 腫瘍に関する内科学の知識を復習する。(30分)
5	国家試験対策講座	臨床神経医学(脳血管障害)の国家試験に関わる知識を習得する事が出来る。	脳血管障害の病態と症状を予習する。(30分) 脳血管障害の評価と対策を復習する。(30分)
6	国家試験対策講座	臨床神経医学(脳血管障害)の国家試験に関わる知識を習得する事が出来る。	臨床神経医学の基礎事項を予習する。(30分) 脳血管障害の国家試験問題を復習する。(30分)
7	国家試験対策講座	リハビリテーション概論の国家試験に関わる知識を習得する事が出来る。	リハビリテーション概論を予習する。(30分) 障害の概念や社会福祉制度を復習する。(30分)
8	国家試験対策講座	リハビリテーション概論の国家試験に関わる知識を習得する事が出来る。	制度や歴史等の関連事項を予習する。(30分) リハ概論の国家試験問題を復習する。(30分)
9	国家試験対策講座	生理学(感覚と受容器)の国家試験に関わる知識を習得する事が出来る。	感覚の種類と受容器を予習する。(30分) 感覚生理学の重要項目を復習する。(30分)
10	国家試験対策講座	運動学(下肢)の国家試験に関わる知識を習得する事が出来る。	下肢の運動学的な特徴を予習する。(30分) 下肢運動学の国家試験問題を復習する。(30分)
11	国家試験対策講座	整形外科の国家試験に関わる知識を習得する事が出来る。	整形外科の主要疾患を予習する。(30分) 整形外科的テストや病態を復習する。(30分)
12	国家試験対策講座	臨床神経医学(末梢神経・筋疾患)の国家試験に関わる知識を習得する事が出来る。	末梢神経・筋疾患の概要を予習する。(30分) 神経・筋疾患の鑑別点を復習する。(30分)
13	国家試験対策講座	臨床神経医学(末梢神経・筋疾患)の国家試験に関わる知識を習得する事が出来る。	臨床神経医学の重要疾患を予習する。(30分) 神経疾患の国家試験問題を復習する。(30分)
14	国家試験対策講座	解剖生理学(呼吸・循環器)の国家試験に関わる知識を習得する事が出来る。	呼吸・循環器の解剖生理を予習する。(30分) 胸郭の動きや循環動態を復習する。(30分)
15	国家試験対策講座	内科学(呼吸・循環器疾患)の国家試験に関わる知識を習得する事が出来る。	呼吸・循環器疾患の病態を予習する。(30分) 全範囲の総復習を行い定期試験に備える。(30分)

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80~89点
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70~79点
授業態度				評価なし	可(1):60~69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	友原 望美、川崎 裕史 他		実務経験紹介	本校教員として国家試験対策講義を担当した経験あり。(友原)	

科目名	国家試験対策セミナーB				単位数	1	時間数	30	
授業形態	演習	対象学生	PT 4年	学期	後期	教員実務経験	有	使用教室	202教室
授業概要	国家試験合格に必要な知識を得るに当たり、国家試験の概要を理解し、各自で対策を講じるための情報等を提供する。								
一般目標	<ul style="list-style-type: none"> ・各種試験に対応する分野を学習し知識を習得する。 ・各種試験を定期的実施することで、自身の理解度や到達度を把握し、苦手分野を克服し習得する。 ・教員による国家試験対策講座を受講することで、理解を深め知識を習得する。 								
テキスト 参考書等	クエスチョン・バンク共通問題 クエスチョン・バンク専門問題 適宜資料配布								

到達目標									
知識(認知領域)									
<ul style="list-style-type: none"> ・これまでに修得した専門基礎・専門分野の知識について説明できる。 ・専門基礎・専門分野の国家試験水準の多肢選択問題において、各選択肢の正解・不正解の理由を説明できる。 									
技術(精神運動領域)									
<ul style="list-style-type: none"> ・学修到達度を把握した上で、継続でき、現実可能性のある自己学修スケジュールを立てることができる。 									
態度(情意領域)									
<ul style="list-style-type: none"> ・国家試験に向け、積極的に参加することができる。(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する) ・授業に出席する。 									

回数	授業内容	授業目標	事前学習(上段)・事後学習(下段)
1	国家試験対策講座	運動療法の国家試験に関わる知識を習得する事が出来る。	運動療法の基礎知識をテキストで予習する。(30分) 授業で扱った運動療法の問題を復習する。(30分)
2	国家試験対策講座	理学療法専門(脳血管障害)の国家試験に関わる知識を習得する事が出来る。	脳血管障害の病態と評価法を予習する。(30分) 脳血管障害に関する国試過去問を復習する。(30分)
3	国家試験対策講座	理学療法専門(小児科学)の国家試験に関わる知識を習得する事が出来る。	小児科学の成長発達段階を予習する。(30分) 小児の代表的疾患と評価項目を復習する。(30分)
4	国家試験対策講座	物理療法の国家試験に関わる知識を習得する事が出来る。	物理療法の種類と適応・禁忌を予習する。(30分) 各物理療法の原理と臨床応用を復習する。(30分)
5	国家試験対策講座	物理療法の国家試験に関わる知識を習得する事が出来る。	物理療法の各種機器の操作法を予習する。(30分) 物理療法の安全性とリスク管理を復習する。(30分)
6	国家試験対策講座	理学療法概論の国家試験に関わる知識を習得する事が出来る。	電気・温熱療法の生理的作用を予習する。(30分) 授業内の物理療法小テストを復習する。(30分)
7	国家試験対策講座	理学療法概論の国家試験に関わる知識を習得する事が出来る。	理学療法概論の歴史と法規を予習する。(30分) 理学療法士の職域と倫理を復習する。(30分)
8	国家試験対策講座	理学療法概論の国家試験に関わる知識を習得する事が出来る。	リハビリテーション体系の基礎を予習する。(30分) 理学療法概論の重要キーワードを復習する。(30分)
9	国家試験対策講座	理学療法評価法(疾患別)の国家試験に関わる知識を習得する事が出来る。	疾患別評価法の主要な評価指標を予習する。(30分) 各疾患に特有の評価手技を復習する。(30分)
10	国家試験対策講座	理学療法専門(整形外科)の国家試験に関わる知識を習得する事が出来る。	整形外科の主要疾患と病態を予習する。(30分) 整形外科的テストの目的と法を復習する。(30分)
11	国家試験対策講座	理学療法専門(整形外科)の国家試験に関わる知識を習得する事が出来る。	骨折や変形性関節症の治療方針を予習する。(30分) 整形外科分野の頻出問題を復習する。(30分)
12	国家試験対策講座	補装具療法の国家試験に関わる知識を習得する事が出来る。	義肢・装具の名称と構造を予習する。(30分) 補装具の適応とチェックポイントを復習する。(30分)
13	国家試験対策講座	PT専門(脊髄損傷)の国家試験に関わる知識を習得する事が出来る。	脊髄損傷の損傷レベルと症状を予習する。(30分) Zancolliの分類と残存機能を復習する。(30分)
14	国家試験対策講座	理学療法評価法(MMT・ブルンストローム法)の国家試験に関わる知識を習得する事が出来る。	MMTとBrunnstrom法の基準を予習する。(30分) 段階付けの判定基準を正確に復習する。(30分)
15	国家試験対策講座	PT専門(ADL)の国家試験に関わる知識を習得する事が出来る。	ADL評価法(BI・FIM等)を予習する。(30分) 全範囲の総復習を行い、定期試験に備える。(30分)

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80~89点
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70~79点
授業態度				評価なし	可(1):60~69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	友原 望美、川崎 裕史、他		実務経験紹介	本校教員として国家試験対策講義を担当した経験あり。(友原)	